

4. 実現の手段① 一選択と集中

炭鉱遺産を価値化・可視化する先導的拠点の設定

眠れる地域最大の資源である炭鉱遺産を、地域活性化のために活用するためには、限られた制約の中で、最大限その価値を増大させる戦略的な取り組みが必要です。

地域外に対し訴求力があり、かつ地域内では象徴や場となるための拠点を地域内で整備し、これらをネットワーク化することによって、地域全体の炭鉱遺産の価値を高めます。

この場合、限られた地域経営資源（ヒト・モノ・カネ・時間）の現状を考慮して、場所を選択し地域資源を集中投入して取り組む必要があります。

4-1 「選択と集中」の基本方針

炭鉱遺産の価値を高め、地域内外の人々が認知し、地域での取り組みを示すために、次の3つの視点に沿って戦略的な政策を具体化する必要があります。

■コンテンツ（各拠点）を充実する

まず、地域の歴史を端的に表す拠点を設定し、各拠点のコンテンツがしっかりとした価値を持つ必要があります。

ここでは、次のような働きが求められます。

○基本的な考え方である **1 まち力**と **2 創造都市**の双方が、同時に実現できる器としての「場」の設定

○「場」に意味を与える機能や運営の展開

各拠点での取り組みが具体化するにつれて、地域外の人々の視線にさらされることによって、地域内の人々は自身を客観化することができ「住んでいて良かったという実感」がもたらされます。その結果として、地域外の人々には「見えざる資産の可視化と価値化」という訴求力がもたらされ、地域内外の相互循環が発生します。

■センター機能の所在を明確にする

地域外から訪れる人を受け止め、適切な拠点に導くためには、ワンストップ型のセンター施設（インフォメーションセンター）が必要です。

ここは、人の単なる情報提供の拠点ではなく、各地で行なわれる様々な取り組みなどの情報の共有化や、様々な人を結びつけ、新たな力を生み出すための **3 地域マネジメント**も担います。

■センター～各拠点間を結ぶ

拠点⇔センター間を結ぶ、ソフトとハードの仕組みの充実が必要です。例えば、誘導サインの統一とシステム化や、センターから各拠点を巡るための情報や交通手段の提供などが挙げられます。

4-2 先導的な拠点の選定

■先導的拠点

空知産炭地域の厳しい状況を考えると、これまでのような各自治体で均等に任務を分け合う総花的な政策では、成果を得ることはできません。固定化された沈滞状況を打開するために、「選択と集中」の方針を持って取り組み、まず突破口を開く必要があります。

先導的な拠点は、地域外に対して訴求力を持ち、地域内では象徴や場となり、効果的で効率的なストーリーを描くことができる場です。

しかし、先導的拠点を選択することは、採択されなかった場を将来にわたって切り捨てることを意味するものではありません。選択された場は、現段階で想定される、効果や熟度などから判断した優先度の高さによるものです。

次の3点を「選択と集中」のための基準として、先導的な拠点を選定します。

- ① **ランドマーク**：地域アイデンティティーの象徴
- ② **炭鉱遺産の価値**：資源の賦存・集積状況
- ③ **展開の可能性**：立地位置、取り組みの先導性

3つの観点から、検討の対象となる14のエリアを選定しました。

他のエリアについても、各地域で自発的に取り組むことを宣言し実行する場合には、その優先度は高くなり、先導的なグループに組み入れる可能性を担保したものと理解して下さい。

評価項目 拠点	ランドマーク		炭鉱遺産の価値					展開の可能性					評価 ポイント
	立坑	ズリ山	生産 施設	鉄道	炭住・ 市街地	歴史的 建築物	文化教 育施設	芸術	産業的 自然	観光 行動	札幌 アクセス	市民 活動	
A1 岩見沢				②		①		○		△	①		44
A2 赤平	①	①	○		○	○	○	△	○			●	44
A3 美唄(盤の沢)	○			○	△	○	②	①		②	②	●	55
A4 幌内		○	②	①	○	○	○	○	①	△	③	●	59
A5 唐松・弥生・幾春別	②③③	△	①		○	○	○	△	③	△	③		54
A6 夕張上流部		③	△	○		①	①		△	①			54
A7 清水沢・南部		②	③	③	①	○			②	△		●	51
B1 南美唄			△		②	③					③		21
B2 美流渡・万字		③		△	③			②	○	③	③		33
C1 歌志内上流部	○	○	△		△	○	③					●	16
C2 芦別(国道452号北)		△	△	○	○	○	③		○	○			17
C3 上砂川	○	○		△	△		△	○		△			10
D1 栗山						○				③	○		9
D2 滝川						○		③			○	●	12

評価ポイント：①=15 ②=10 ③=5 ○=2 △=1 市民活動=3

■展開の整序化

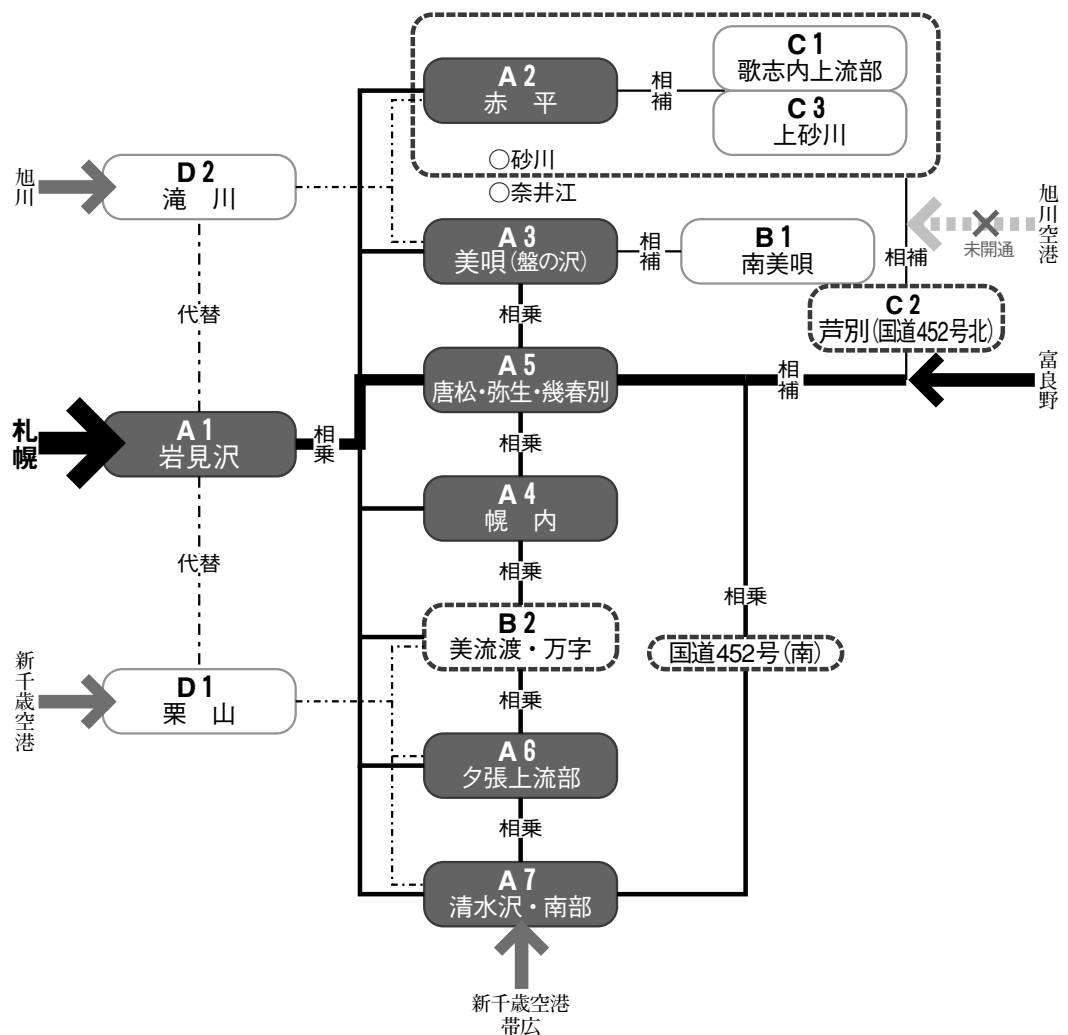
これらは、一様な重みの横並びではなく、どこをクローズアップすると空知産炭地域全体で《炭鉱の記憶》として表現できるかについて、空間的な連続性を検討し展開の整序化を図る必要があります。

そこで、各エリア相互を、相乗・相補・代替という関係で整序化します。

- 相乗**：コーヒーとクッキーのような関係で、それぞれ自体はおいしいが、セットになるとよりおいしくなるような例。
- 相補**：コーヒーとクリープのような関係で、クリープだけ食べることはしないが、クリープはコーヒーと一緒にすることによってコーヒーがよりおいしくなる効果をもたらす。
- 代替**：コーヒーと紅茶のような関係で、コーヒーか紅茶かいずれかを選択できる関係。

また、優先度や実現可能性の観点からも、各々のエリアを整序化します。

- A**：空知産炭地域を表現するのに欠かせない拠点
- B**と**C**：Aと相補関係にある拠点、優先度は**B** > **C**
- D**：Aのセンター機能を代替する拠点



■センター拠点：岩見沢（十栗山・滝川）

地域外に対して開いているセンター機能を備えたワンストップ拠点の立地に相応しい場所は、**A1 岩見沢**です。札幌圏や空知各地との優れたアクセス性は、炭鉱地帯の集散地として成立した歴史的経緯によるものです。この特性を生かすには、岩見沢市内でのセンター拠点の立地位置を選定する際に、できるだけ交通利便性の良い場所（さらに炭鉱の記憶を感じることができる場所）であることが望まれます。

岩見沢のセンター機能を代替するサブセンター的な地位にあるのが、**D1 栗山**（代表施設＝以下★印：小林酒造）と **D2 滝川**（★太郎吉蔵）です。この2つのサブセンターは、地域内外からのアクセス性の良さに加えて、すでに具体的な拠点となる場が整備されていることから即応性の面でも評価されます。

また、**芦別**（★スターライトプラザ芦別）は、地域の北東部のゲートに位置し、**D1 栗山**・**D2 滝川**と同様のサブセンターとしての潜在的な可能性を強く有しています。今後の環境変化（特に国道452号不通区間の解消による交通拠点性の向上）や取り組み動向によっては、地域全体への貢献度が高まり、サブセンターとして機能することが期待されます。

■重要拠点：赤平・美唄・三笠・夕張

A1 岩見沢に対して相乗効果があるのは、次の7つのエリアです。

A2 赤平…★住友赤平鉱立坑、★北炭赤間鉱ズリ山階段

A3 美唄…★三菱美唄鉱立坑、★アルテピアッツァ美唄

A4 幌内…★幌内炭鉱景観公園、★三笠鉄道村

A5 唐松・弥生・幾春別…★立坑群（北炭幌内鉱立坑、住友奔別鉱立坑、北炭幾春別鉱錦立坑）、★幾春別～西桂沢間の野外博物館

A6 夕張上流部…★石炭博物館、★旧北炭鹿の谷倶楽部、鹿ノ谷駅周辺の鉄道遺構

A7 清水沢・南部…★清水沢地区炭住群、★北炭夕張電力所・清水沢ダム、シューパロ川沿いの炭鉱遺構

B2 美流渡・万字…★北炭万字鉱ズリ山、旧万字線沿線の炭鉱遺構

これら**A2～A6**は、**A1 岩見沢**に対して相互に代替関係にあります。そのうち**A3～A7**の相互は、それぞれ相乗関係にもあります。

B2 美流渡・万字は、単独ではBに位置づけられていますが、立地位置の優位性から**A2～A7**と同列に置かれます。

■その他の拠点：芦別・歌志内・上砂川

C1 歌志内上流部と**C3 上砂川**は、個別単独では弱いものの、**A2 赤平**との相補関係にあることから、一体的な取り組みによって価値発揮が期待されます。

C2 芦別（国道 452 号北部）は、基本的には **A5 唐松・弥生・幾春別**や **A7 清水沢・南部**との相補として位置づけられます。ただし、国道 452 号を巡る動向（未開通となっている芦別～美瑛間の整備進展、国道 452 号自体の魅力向上など）、芦別市での取り組み度合いや周辺動き（三笠 IC～富良野間の動線変化など）によっては、劇的に具体化の環境が改善し、単独展開や **B** への再位置づけも十分考えられます。そのため、関連する拠点との不断の連携強化が不可欠であると言えます。

A5 唐松・弥生・幾春別と **A7 清水沢・南部**は、景観や地質での要素の類似点が多く、**国道 452 号（南）**を介して新たな相乗関係の構築が構想できます。特に、この地域の景観的特性を体現するジオパーク的な展開の可能性が十分考えられます。

5. 実現の手段②ーネットワーク化

地域外の力を地域内に引き入れるための「ネットワーク化」

ここでは、前の4章で設定した先導的拠点を手がかりにして、地域外の力をこの地域に引き入れ、まち力（市民力）を高めるための仕組みを示します。

有為な地域外の人々が、地域内の動きに関心を持ち、地域活性化の応援を得るには、個々の自治体単位の取り組みではなく、空知産炭地域全体の価値を高め打ち出す「ネットワーク化」が不可欠です。

5-1 「ネットワーク化」で目指すもの…質×量の最大化

■「地域外の人」の捉え方…V量とQ質

□再び…「創造都市」の考え方を確認

この戦略で最初に取り組むのは、「創造都市」というキーワードの下で実践を重ね、そのプロセスを内外に発信し、多くの人に認知してもらうことです。

「創造都市」とは、様々な活動や価値を「創造」する条件を備えた地域のことで（⇒はじめに「戦略」、3-1「基本的な考え方」参照）。この戦略では、基本的な思想として、「未来を描くために…過去をしっかりと見据える」ことを掲げています（⇒はじめに「思想」参照）。

このメッセージは、最も厳しい状況の中で懸命に地域活性化に取り組む空知産炭地域から発したものであり、全国各地で地域活性化に取り組む人々に対して、新たな価値観を提示するという意義を持っています。

その意義を具体的に表現するためには、「未来を描くために…過去をしっかりと見据える」というメッセージが、地域外の人に眼に見える形で実践されていなければなりません。

その際、この地域で最も有望な手がかりが《炭鉱の記憶》です。地域に残された未利用で固有性の高い資源であり、その歴史的経緯や石炭産業自体が持っていた総合性から、多くの人の知的好奇心を刺激できます。

まず、「創造都市」というキーワードに反応する地域外の有為な人々という「外の力」を利用し、それを「内の力」として変換し蓄積することを目指します。

「外の力」には、たくさん人が来るという量（=Volume）の面と、影響力や能力のある人が来るという質（=Quality）の面があります。

これまで、各地の観光政策で目指してきたのは、たくさんの人を呼び込むというV量の確保でした。しかし、「創造都市」を具体化するには、見えない価値を的確に捉えることができる人や、影響力のある人といった、Q質に注目することが重要です。

		V 量の確保	Q 質の向上
項目の性格	特性	必要条件 ・誰も来ないと成立しない ・必要な要素	十分条件 ・誰でも良いという訳でない
		対象 不特定多数 ・市場=大 ・来訪率=小 ・忠実性=小	特定少数 ・市場=小 ・来訪率=大 ・忠実性=大
		移動行動 常識的だけど腰が重い ・移動制約=大 ・線や面での移動 ➔ 面的なラケット型 ・空知のあたりに行く	活発だけど気まぐれ ・移動制約=小 ・点の移動 ➔ 点的なピンポン型 ・炭鉱や鉄道などテーマを追求
		行動契機 受動的 ➔ 他の情報刺激を受けて行動	能動的 ➔ 自の意志で刺激を求め行動
		行動規範 余暇・娯楽（観光） ➔ でも従来の観光客とはひと味違う人	学習・収集 地域マイラー（=マイレージ蓄積）
		基本 基本的要素の具備 ・一般的な人への訴求力 ・明快でわかりやすい表現	テーマに沿ったストーリー ・コアな人への訴求力 ・微細な差異の主張
具体化の要件	取組主体 各自治体単位 > 空知広域	各自治体単位 < 空知広域	
	炭鉱の記憶 定食料理の独特の味付け	灯台	

■量×質の最大化

地域外の人 (=《炭鉱の記憶》に触発された知的好奇心を持つ人) の力を得て創造都市を実現するためには、**Q質**の向上を図ることが基本となりますが、ある程度の**V量**の確保も必要です。

従来、各自治体で展開されてきた観光政策は、**V量**の拡大だけを目指してきました。しかし、特徴的な観光資源の乏しい空知産炭地域では、他地域と太刀打ちできませんでした。

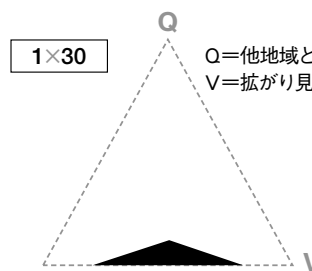
一方、炭鉱遺産を手がかりに展開してきた市民活動は、**Q質**を追求してきましたが、対象層が固定化され拡がりは見られませんでした。

V量を増やすためには、他地域との競合に対抗できる特徴である**Q質**が不可欠です。

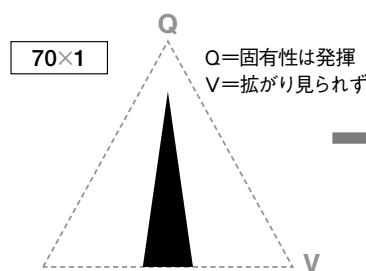
例えば…三笠から富良野に向かう観光客が、他の観光地と違う**Q質** (地域固有性) に気づいてもらえれば、**V量**は増加します。

Q質が低い確保できていなかった**V量** [$Q 1 \times V 30$] を、**Q質**の視点の導入によって引き上げ [$Q 10 \times V 70$] ようとするものです。

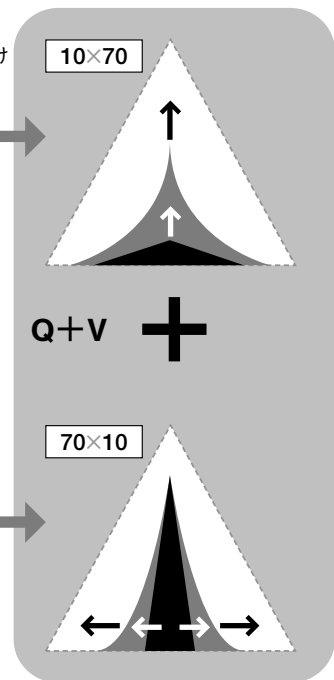
V従来目指してきた観光政策
(不特定多数)



Q従来の市民活動
(特定少数)

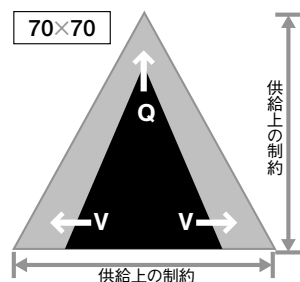


今回の取り組み



Q質 × V量

Q × V目指すべき構図
(特定多数)



Q・Vともに制約がある
Q=炭鉱遺産の減失
V=対応能力の限界

また、**Q質**を維持向上し続けるためには、ある程度の基礎的な人数**V量**が不可欠です。

例えば…炭鉱遺産に愛好者の裾野が広い（**V量**）アートの要素を加えると、炭鉱遺産のマニア的な層だけではなく幅広い人の関心と呼ぶとともに、新たな**Q質**（地域固有性の表現）を追求する取り組みを維持できます。

Q質は高いが狭い対象層しか確保できていなかった [Q 70 × V 1] 状態から、一般化することによって、**V量**の幅を拡げ [Q 70 × V 10] ようとするものです。

今回の戦略は、地域固有性が高く知的好奇心の素材となる炭鉱遺産を通じて、**Q質**と**V量**の双方の関係を適切にマネジメントすることによって、**Q質**と**V量**の総和（**Q質**×**V量**）である地域のパイを大きくしようとするものです。

ただし、**Q質**と**V量**ともに、供給上の制約があることを認識しておく必要があります。

Q質：炭鉱遺産の減失が激しく残存資源に限りがある

V量：人口が少なく高齢化しており受入能力には限界がある

そのため、地域外の人との関係性は、できるだけ有為な人（影響力の強い人、知識・技能・人脈などを持った人）を意識すべきです。

5-2 対象層による戦略の違い

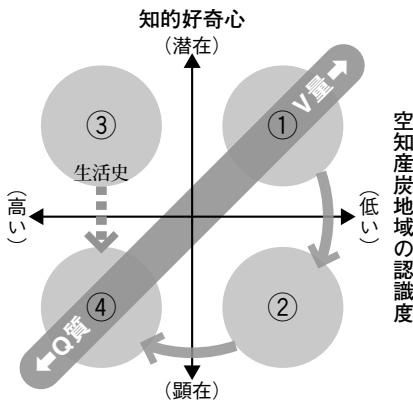
■対象層の区分…Q質とV量の組み合わせ

Q質×**V量**の組み合わせによって、とるべき戦略は当然のことながら異なります。ここでは、**Q質**×**V量** =100の場合を例に、その組み合わせの違いによる対応戦略を説明します。

	合計=100の Q質×V量 組み合わせ	対応層別の戦略				 Q 質の確保 (炭鉱遺産) V 量の確保 (観光)
		Input	必要な変換装置	Output	比喻	
①	Q 1 × V 100		あり得ない (従来の自治体内で完結する観光政策の限界)			
②	Q 5 × V 20		一見Vに合わせるが その裏でQがチラチラ V _q		サブミナル (刷り込み)	
③	Q 20 × V 5		象徴的Qの打ち出し 最低限のVも必要 V _q		本末転倒 転調	
④	Q 100 × V 1		Qの新たな意味付与 Vも少しは必要 Q		目から鱗	
⑤	Q 100 × V 1		Qの取り揃え Vは不要 Q		××道	

①②の実現には
③④の取り組み
が不可欠

□詳説：①～④ 組み合わせのポジショニング
想定した対象層①～④は、下図のような違いがあります。



- ①と②は、ともに空知産炭地域に対する認識度が低く、来訪は観光的な動機によります。
- ②は、知的好奇心の素地が①よりも高いため、④へ容易に移行する可能性を持った潜在層として捉えることができます。
- ①は、V量があり①→②→④と進む可能性はありますが、即効性と歩留まりに一定の限界があります。
- ③と④は、すでに来訪動機を持っている層ですが、現在のところ人数は限られています。
- ④は、戦略の本来の意図を最も体現した層で、Q質の面で空知産炭地域に最も刺激を与える存在です。
- ③は、自らが空知産炭地域との何らかのかかわりを持っている層であり、自身の生活史の明確化・再確認を通じて、④への移行や、④との連携が期待できます。

② Q 1 × V 100

Q質がないのにV量を達成できるはずがなく、極めて実現が難しい組み合わせです。

○従来、各地でこのパターンを想定して観光政策を展開していました。

① Q 5 × V 20

一般的な観光客を想定したものです。

際だった既存拠点による吸引力や、イメージ先行のストーリー性の打ち出しによって、まずはとにかく空知産炭地域に来訪してもらい、その経路上の随所で《炭鉱の記憶》との関連性を暗示させます。

そのうち、知的好奇心の一端を持つ人の心の深層に、《炭鉱の記憶》が刷り込まれることを狙いとします。

際だった拠点とは、固有性・知名度・先鋭性・流行性などを有した場（例えば…山崎ワイナリー、アルテピアッツァ美唄、砂川スイートロード、ソメスサドル・いたがき）で、この地域ではそう多くありません。そのため、史実に基づいたストーリーの意識的な打ち出し（例えば…ライマン・榎本武揚・国木田独歩など）、ネーミングの工夫やイメージ形成も必要です。

典型的なプロフィール●札幌在住の31歳主婦Aさん、子どもなし、短大卒、マンション居住、週2日派遣バイトで小遣い稼ぎ、LOHAS（健康で環境に配慮した持続可能な生活）大好き、「poroco」「スロウ」は毎号購読している、ブログを開設している

② Q 20 × V 5

本来的に知的好奇心の旺盛な人が、一般的な観光のつもりで来訪する場合を想定したものです。空知地域は炭鉱とともに生成し、石炭鉱業が歴史的に果たしてきた役割についても基礎的な知識として理解していることが想定されます。

そのため、象徴的な炭鉱遺産や、センスの良い場・「コト」・「モノ」など、印象的な場を配することで、本来は観光目的で来たのが次第に《炭鉱の記憶》への関心が主となるよう、本末転倒を促すことを狙いとします。

典型的なプロフィール●札幌在住の45歳会社員Bさん、大学卒、海外の文化世界遺産を幾つか訪問した経験がある、NHK「知るを楽しむ」はテキストを購読し視聴している

③ Q 100 × V 1

かつてこの地域に住み、炭鉱に縁のあった人を想定しています。

故郷の衰退に心を痛めていますが、支援の「キッカケ」もなく、炭鉱がなくなったのだから仕方がないと諦め、せめて自分が生活していた手がかりだけでも保存してほしいと願っている人です。比較的高齢の方が多いと思われます。

地域活性化に向け炭鉱遺産の場が生まれ変わる実践を実見することによって、過去だけではなく、未来に続く取り組みが行われている

ることを実感し、「眼から鱗が落ちた」印象を抱いてもらうことを狙いとします。

典型的なプロフィール●炭鉱で掘進員だった江別の73歳無職Cさん、鉱員養成校卒、最近電子メールが使えるようになって連絡を取り合っている仲間とは故郷の衰退に心を痛めている、年に1度は墓参りで来訪

④ Q 100 × V 1

③と同じ [Q 100 × V 1] ですが、何らかの「キッカケ」で炭鉱遺産に強い関心を抱いた人を想定しています。

自身と空知産炭地域との関係は必ずしも高くなく、年齢層も多様です。興味関心の対象も、炭鉱だけに限らず、鉄道・写真・芸術・廃墟・自然・歴史など、多岐にわたります。

従来の市民活動では、この層が主要顧客でしたが、数の広がりは見られず限界がありました。しかし、活動への積極的な関与や、情報の収集・発信の熱意など、Q質を高めることに最も貢献する不可欠な対象層ですので、継続して来訪を導きます。

典型的なプロフィール●埼玉県在住の28歳公務員Dさん、大学院修士課程卒、全国行脚した中で空知が気に入りに来訪歴十数回、「鉄道ピクトリアル」を毎号購読しNHK「熱中時代」を見て大いに共感する、フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia) の幾つかの項目を執筆している

■従来型マーケティングとの違い

これまで、このような対応戦略を構想する場合には、居住地・年齢・性別・年収・学歴などある基準によって市場を切り分けて (=セグメント)、最も顧客対象を多く含む層に狙いをつけ (=ターゲット)、刺激を与えて需要を喚起するという手順が一般的でした。

しかし、ここ10年の取り組みでわかったことは、このような伝統的なマーケティング手法による、一般的な切り口では、炭鉱遺産に関心を示す潜在層を捉えきれないということです。

「ターゲットはどこにあるのか？」と問われれば、唯一適切な答えは「炭鉱遺産に反応する価値観を持った人」ということになります。このような人は、居住地・年齢・性別・年収・学歴という従来の切り口の中では、塊として一様にいるのではなく散在しています。

そのため、「どのような人が来てくれるのか」という発地・誘致型の発想ではなく、「こういうものがあるから来て下さい」という着地・募集型の取り組みが基本となります。

もっとも、地域外の人を対象としているため、物理的な移動が必ず発生することから、主に念頭におくべき地域的な対象は札幌圏であることは確かです。

また、少数の入口から多数の来訪者を獲得しやすいという点では、教育分野も効率が良い切り口です。炭鉱の持つ多面性を捉えるためには、一定の知識や理解力が不可欠であることから、大学のような高等教育機関が有望です。

5-3 拠点のネットワーク

■テーマに沿ったトレイル（ルート）

前節で述べた対象層①②は、《炭鉱の記憶》を目的とした来訪は期待できず、通常の観光活動に近い動機によって来訪した際に、《炭鉱の記憶》に気づいてもらうことになります。

空知産炭地域への来訪動機となる地域資源には、注目度の高いものと弱いものがあります。広域的に考え、強いものが弱いものをフォローし、お互いに補完しあえる仕組みをつくる必要があります。

表面的には、通常の観光ルートとして打ち出すことができ、実際に空知産炭地域へ来訪した際には、《炭鉱の記憶》とのつながりを意識できそうな構造となります。また、広域的なストーリーを構築することで、各々自治体での役割や可能性が明確となつて、公共事業の連携が可能となります。

このような観点と、地域内にある資源の状況とを照らし合わせて、5つのルートを構想しました。

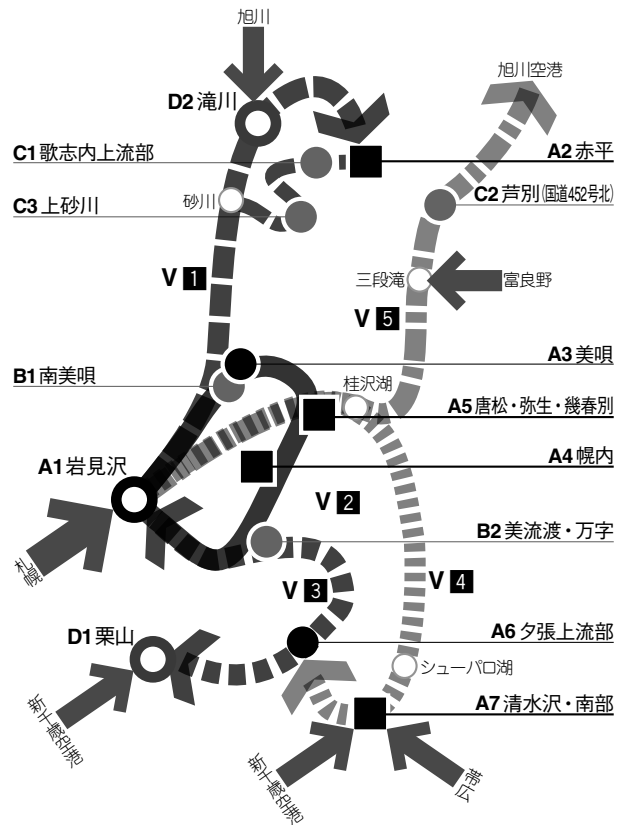
□ここで構想したトレイル（ルート）は、単なる観光ルートではありません

トレイル（ルート）は、ただ観光客が来てくれれば良いのだという発想で構想されたものではありません。

これまで、随所で説明してきたように、この戦略の基本精神は、「未来を描くために…過去をしっかりと見据える」ことにあります。

テーマに沿ったトレイル（ルート）は、このメッセージを地域外の人に眼に見える形で示すための手段です。

地域外の人々の知的な好奇心を刺激する素材をトレイル（ルート）として編集し、地域外の有為な人々による「外の力」を、空知産炭地域の各所に設定した拠点で「内の力」として変換し蓄積することを目指しています。



V 1：歴史 [岩見沢～美唄～滝川・上砂川・歌志内～赤平]

地域外との最大の接点である岩見沢（センター）から、国道12号・道央高速道路に沿って北に展開するルートです。目立っているアルテピアッツァ美唄、砂川・滝川周辺の観光対象（スイートロード、こどもの国、ソメスサドル、ジンギスカンなど）を軸にして、その間に《炭鉱の記憶》を組み合わせます。

動線が長く途中のポイントの間隔が開いていることから、何らかのテーマ性による補助が必要となります。そのテーマとしては、この一帯を往来した歴史的な人物（例：ライマン、榎本武揚、国

木田独歩)にちなんだものが有力です。また、赤平はルートのアンカー的な位置にあることから、特に拠点形成のための努力が必要となります。

V 2：アート [岩見沢を中心に美唄・三笠・美流渡万字]

このルートは、様々な要素がバランス良く豊富に揃っていることが特徴です。面的にもコンパクトにまとまっており、札幌圏からの距離は短く公共交通の路線・頻度も密にあり、成立条件に恵まれたルートです。

そこで、独創的なテーマを設定し、地域資源に新たな価値を加える取り組みを展開します。具体的には、潜在的な価値（安田侃・川俣正・伊佐治コウなど芸術家の存在や上美流渡でのアーティストの集積、北海道教育大学岩見沢キャンパスの芸術課程、アルテピアッツァ美唄・幌内炭鉱景観公園などアートに適した空間）を生かして、アートをテーマに設定します。

V 3：産業的自然 [岩見沢～美流渡万字～夕張～栗山]

温泉・果樹など都市型のレクリエーション施設、夕張の既存観光施設、万字峠の景観など、見どころが充実しています。また、札幌からは距離的にも近く往復の経路の多様性が確保できることから、最も観光的な色彩が強く、即効性のあるルートです。

ルートは、特徴的な渓谷と峠のロケーションに沿い、その中にズリ山・炭住・送電線鉄塔などの炭鉱遺産が随所に残っています。自然と人工物のせめぎ合いを目の当たりにすることができ、途中での適切な機会の設定によって、《炭鉱の記憶》への誘導が期待できます。

V 4：ジオパーク [岩見沢～唐松弥生幾春別～清水沢南部～夕張上流部]

空知産炭地域の南部を、西側から包み込み大回りするルートで、湖・ダム、炭鉱、地質、森林という多様なテーマを設定できます。

桂沢湖～シューパロ湖間は冗長であることから、何らかの価値創出が必要であり両端部での展開が鍵を握ります。そこでは、特に地質を切り口として、広い範囲を対象とし開発の姿まで見ることができる特徴的なジオパーク（（一）地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園）とテーマ設定が有望です。

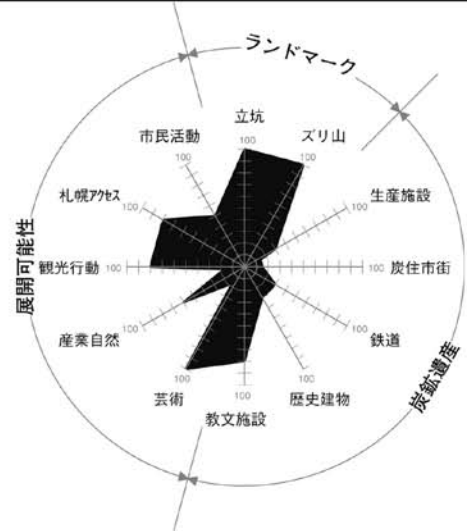
V 5：回廊 [岩見沢～唐松弥生幾春別～芦別]

札幌から富良野に抜ける主要経路の一部を構成する国道 452 号北側のルートで、通過交通を誘導することが主眼となります。

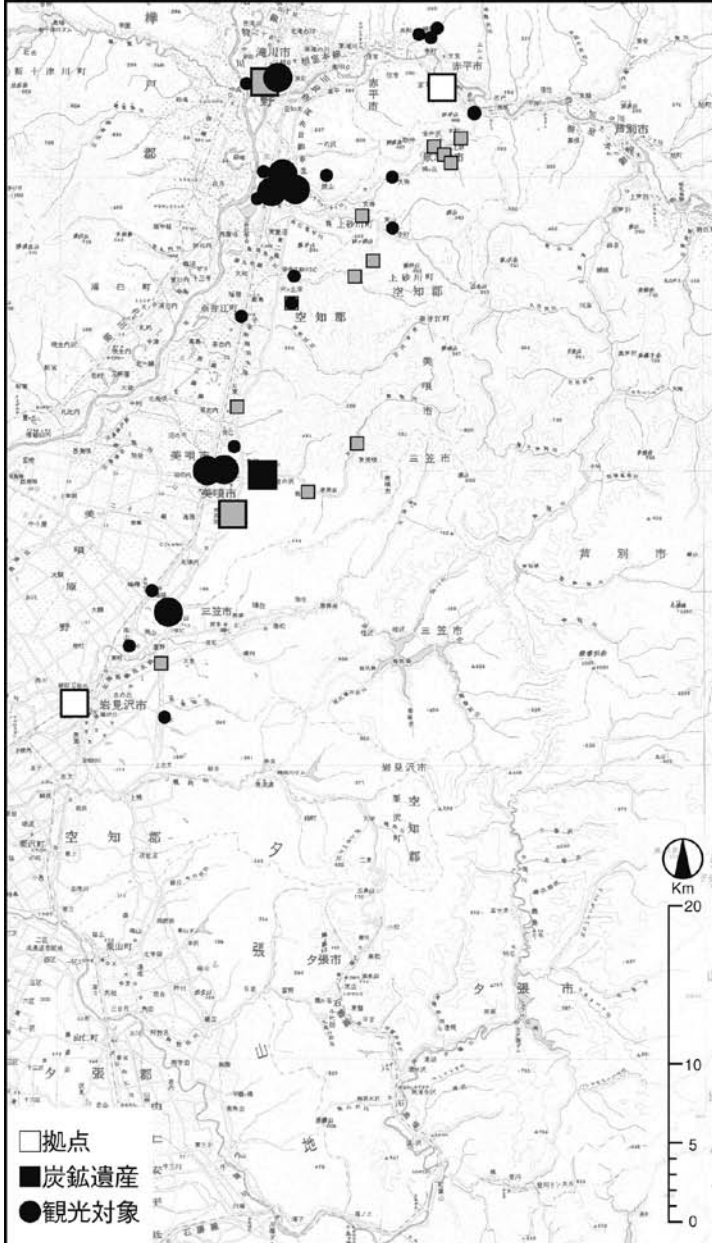
芦別三段滝付近から富良野に向かう交通が多く、流動が芦別まで至らないのが大きな課題となっています。芦別での取り組みだけでは限界があることから、国道 452 号の不通区間（芦別～美瑛間）の解消が急務です。全通した際には、空知産炭地域の東側を縦断する国道 12 号・道央高速道路の軸線と対になって、旭川空港～新千歳空港を結ぶ回廊として機能することによって、地域全体の取り組みを強力に支援する基盤となることが期待されます。不通区間の事業熟度を上げるためにも、隣接する赤平・三笠と協調した芦別での先行的な取り組みが求められます。

V1 歴史 (ライマン・榎本武揚・国木田独歩…)

- ・高速道沿いに展開するV資源を上手く活用
- ・全体を表現する強い軸イメージ (ロマン性を持つストーリー造成)
 - …ライマン、榎本武揚、国木田独歩
- ・飛び石的に赤平まで誘導
- ・途中での確かなQ情報の提示 (刷り込み) …アルテピアッツァが重要
- ・砂川→上砂川→歌志内→赤平、砂川→滝川→赤平へ誘導
 - …テーマ性など工夫必要
- ・赤平での特徴的な拠点の形成が必要
 - (表向きはVだが…実はQというような)
- ・各地の小さいV資源での小まめなQ情報の提示が必要



ルート



□岩見沢駅周辺…圏域全体の情報拠点

- 道の駅
- 萱野駅 (●ライダーハウス)
- 山崎ワイナリー
- 峰延ハスカップ

- 南美唄 (炭鉱住宅・福利厚生施設)
- アルテピアッツァ (栄小) …V⇒Qの意識付け重要拠点
- 美唄焼き鳥、中村鳥めし
- 三菱茶志内鉱跡

- 奈井江町文化ホール、道の駅
- にわ山森林公園…眺望点 (■石炭露頭)
- こどもの国
- 砂川スイートロード
- ソメスサドル
- 砂川オアシスパーク、北光公園
- 北の湯 (■住友奈井江鉱跡)

- ジングスカン

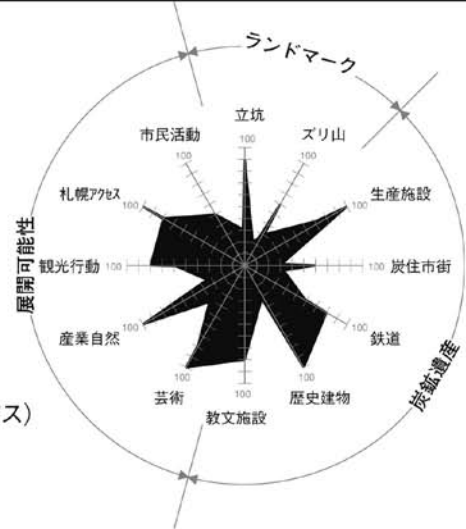
- 滝川駅周辺…北部情報拠点 (●太郎吉蔵・五十嵐威暢)
- スカイパーク

- 岩瀬牧場
- 上砂川 (三井砂川立坑・坑夫像)
- パンケの湯
- 悲別駅舎 (■上砂川駅舎)
- チロルの湯、道の駅 (■住友歌志鉱跡)
- 歌志内 (ゆめつむぎ、倶楽部、空知立坑)
- 悲別ロマン座 (■上歌会館)
- 独歩苑

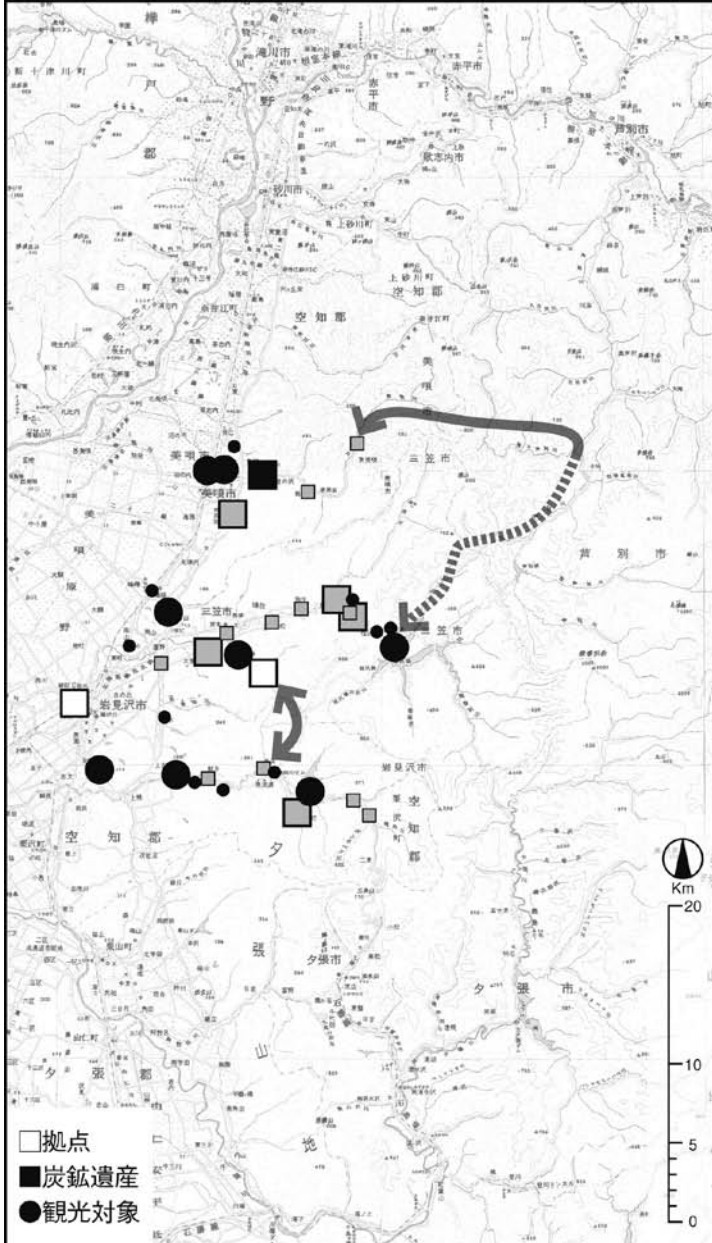
- 住友赤平 (立坑・機械・資料・坑口浴場、北炭赤間 (ズリ山))
- 幌岡 (幌岡ソーコ、いたがき、エルム高原温泉) (■植松電機)

V2 アート

- ・岩見沢を中心にした狭範囲回遊
- ・回遊のテーマとしてのアート
 - ⇒多くの人材が集積（アーティスト・教員～教育大芸術専攻学生）
- ・作者や作品だけではなく…空間自体のアート（展開可能）性も魅力
- ・岩見沢での確かな情報提示ができる拠点が不可欠（…その拠点もアート性必要）
 - ⇔教育大の表現の場との共用の可能性
- ・「農」との境界領域にある（農でキッカケ→沢に分け入る）
- ・密度高く、バランス良く炭鉱記憶が残っている
 - ⇒VからQへの意味転換は比較的容易
- ・岩見沢－美唄／三笠／万字を結ぶ移動ルートの特徴出し（例えばフットパス）
- ・各拠点（地区）でのアートの棲み分けが必要



ルート



□岩見沢駅周辺…圏域全体の情報拠点

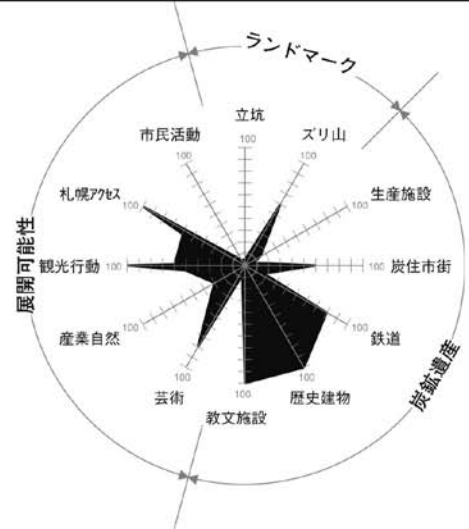
- 道の駅
- 萱野駅（●ライダーハウス）
- 山崎ワイナリー
- 峰延ハスカップ
- 南美唄（炭鉱住宅・福利厚生施設）
- アルテピアッツァ（■栄小）…V→Qの意識付け重要拠点
- 美唄焼き鳥、中村鳥めし
- 三笠市役所・市民会館緞帳・特徴的な都市計画
- 幌内炭鉱景観公園十周辺（市街地・アートギャラリー）
- 三笠鉄道村
- 伊佐屋ギャラリー、倶楽部跡の樹種・空間構成
- 幌内立坑
- 唐松（駅・坑口・炭住街）
- 弥生（特徴的な木造炭住）
- 住友奔別立坑
- 北炭幾春別錦立坑
- 三笠市立博物館
- 幾春別市街地
- 湯ノ元温泉、健康増進センター
- 桂沢湖
- 宝水ワイナリー
- 上志文～万字：果樹
- 朝日（駅・会館・炭住）
- 美流渡（炭住・市街地・ズリ山・ジャンプ台）
- 毛陽メイプルロッジ、交流センター
- 上美流渡アートビレッジ
- 北海道グリーンランド
- 万字（ズリ山、市街地）

- 拠点
- 炭鉱遺産
- 観光対象

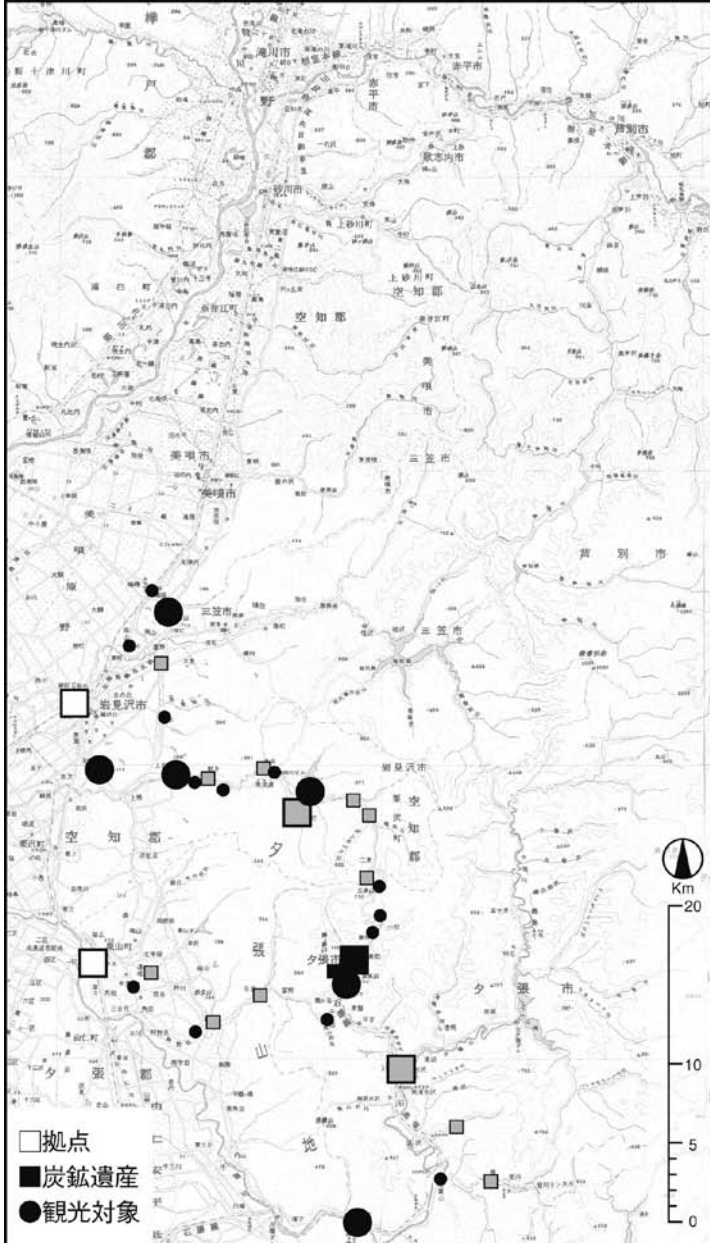


V 3 産業的自然（峠・渓谷の中にある炭鉱遺産）

- ・岩見沢から栗山（紅葉山）を結ぶ回遊ルート
- ・両端の岩見沢と栗山での情報提供拠点の整備が不可欠
- ・夕張、万字（毛陽）は、すでにVルートとして定着
- ・渓谷沿いの移動となり常に炭鉱を感じる空間に密着
- ・石炭博物館、旧北炭鹿ノ谷倶楽部など象徴的な拠点がルート中央に立地
- ・清水沢は生活拠点をどう見せるのかが課題



ルート



□岩見沢駅周辺…圏域全体の情報拠点

- 道の駅
- 萱野駅 (●ライダーハウス)
- 山崎ワイナリー
- 峰延ハスカップ

- 北海道グリーンランド
- 宝水ワイナリー
- 上志文～万字：果樹
- 朝日（駅・会館・炭住）
- 美流渡（炭住・市街地・ズリ山・ジャンプ台）
- 毛陽メイプルロッジ、交流センター
- 上美流渡アートビレッジ
- 万字（ズリ山、市街地）

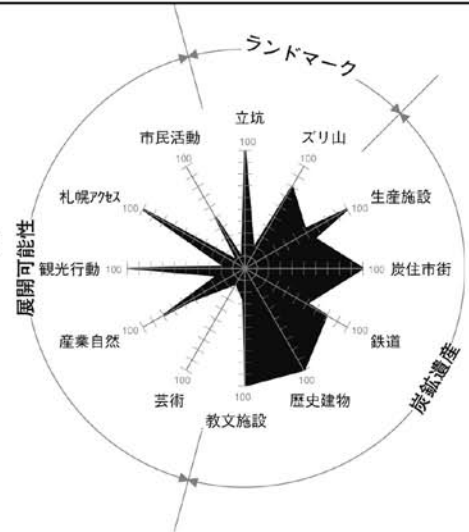
- 道道岩見沢夕張線の急カーブ・坂・眺望 (■北炭送電線)
- メロン城
- ニトリ桜
- 石炭博物館
- 旧北炭鹿ノ谷倶楽部
- 夕張リゾート (■多くの炭鉱記憶の上に立地)
- 清水沢（ダム・発電所・ズリ山・炭鉱住宅群）
- 真谷地
- 紅葉山（メロン）
- 楓
- 滝ノ上 (■北炭発電所・地層擾乱)

- 道道札幌夕張線の坂
- 夕鉄駅舎（新二岐・継立）と路盤跡
- 坂本九思い出資料館
- 王子製紙森林博物館
- 天然温泉くりやま、シャトレーゼ
- 栗山…南部情報拠点 (●北の錦)

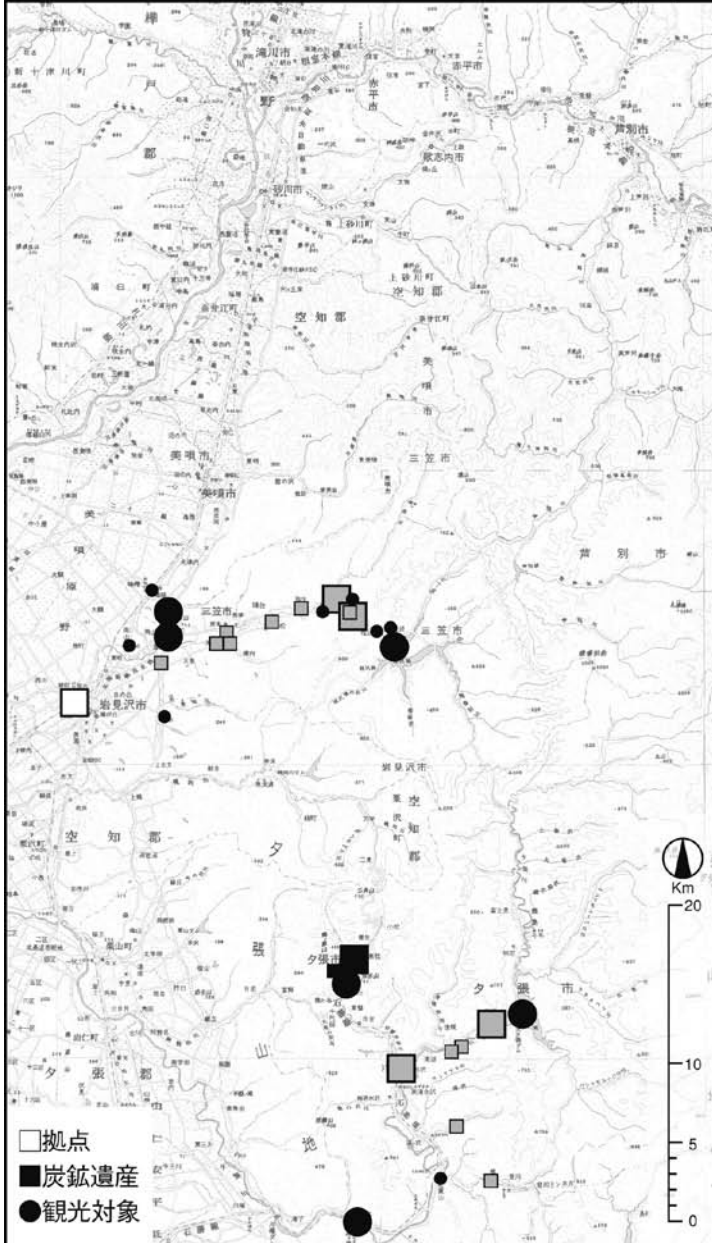
- 拠点
- 炭鉱遺産
- 観光対象

V 4 ジオパーク

- ・岩見沢から夕張に至る大回り回遊ルート
- ・国道452号を介して、三笠側と夕張側ゲートで同様の環境（炭鉱・ダム・川・森林）
- ・桂沢湖～シュエパロ湖間のテーマ性や仕掛けに工夫が必要
- ・アウトドアの展開可能性高い（アクティビティーしながらQを感じる）
 - 幾春別＝《動》地層擾乱の体感、南部＝《静》2ダム間のゆるやか水面



ルート



□岩見沢駅周辺…圏域全体の情報拠点

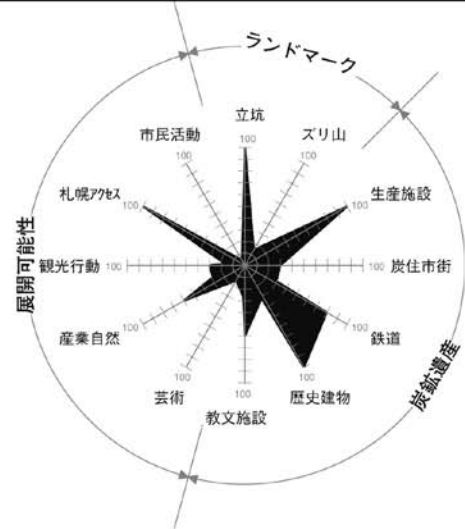
- 道の駅
- 萱野駅 (●ライダーハウス)
- 山崎ワイナリー
- 峰延ハスカップ
- 三笠市役所・市民会館緞帳・特徴的な都市計画
- 伊佐屋ギャラリー、クロフォード公園
- 幌内立坑
- 唐松 (駅・坑口・炭住街)
- 弥生 (特徴的な木造炭住)
- 住友奔別立坑
- 北炭幾春別錦立坑
- 魚染の滝
- 三笠市立博物館
- 幾春別市街地 (■)
- 湯ノ元温泉、健康増進センター
- 水辺の楽校
- 桂沢湖

□国道452号 (桂沢湖～シュエパロ湖)…何かテーマ性必要

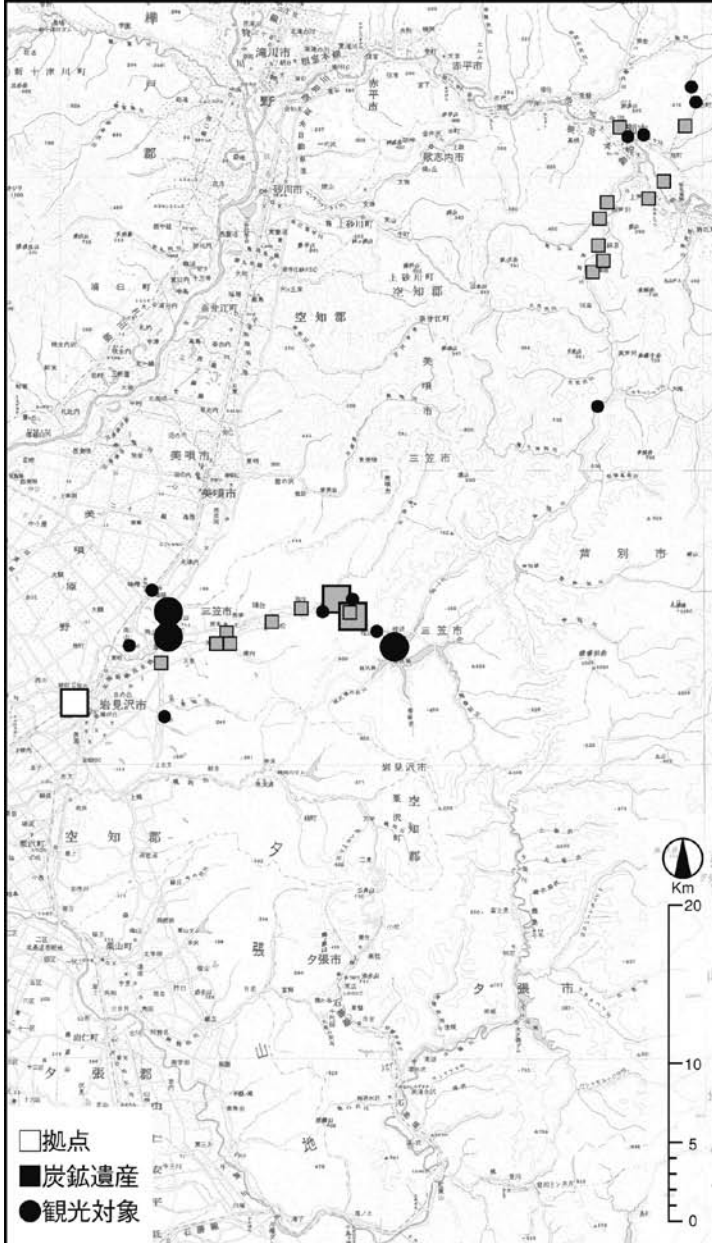
- シュエパロ湖
- 大夕張鉄道車両
- ズリ山 (北夕、北菱)
- 清水沢 (ダム・発電所・ズリ山・炭鉱住宅群)
- 石炭博物館
- 旧北炭鹿ノ谷倶楽部
- 夕張リゾート (■多くの炭鉱記憶の上に立地)
- 真谷地
- 紅葉山 (メロン)
- 楓
- 滝ノ上 (■北炭発電所・地層擾乱)

V5 回廊（緑…+ドライブ系）

- ・岩見沢から芦別に抜ける通過ルート
- ・国道452号を介した札幌⇄富良野の流動量の多きさに負う
- ・三段滝から折れ富良野に向かう流動をいかに芦別へ惹きつけるかが課題
 - 芦別での特徴的な展開に負う
 - 国道452号不通区間（芦別油谷～美瑛）が開通すれば一挙に解決



ルート



- 岩見沢駅周辺…圏域全体の情報拠点
- 道の駅
- 萱野駅 (●ライダーハウス)
- 山崎ワイナリー
- 峰延ハスカップ
- 三笠市役所・市民会館緞帳・特徴的な都市計画
- 伊佐屋ギャラリー、クロフォード公園
- 幌内立坑
- 唐松 (駅・坑口・炭住街)
- 弥生 (特徴的な木造炭住)
- 住友奔別立坑
- 北炭幾春別錦立坑
- 魚染の滝
- 三笠市立博物館
- 幾春別市街地 (■)
- 湯ノ元温泉、健康増進センター
- 水辺の楽校
- 桂沢湖
- 国道452号 (桂沢湖～三段滝)…何かテーマ性必要
- 三段滝 (■地層擾乱)
- 頼城 (坑夫像、炭鉱住宅)
- 星槎大学 (旧頼城小学校)
- 三井鉄道旧緑泉駅
- 三井鉄道橋梁十車両
- 三井鉄道旧三井芦別駅
- 上芦別 (三菱芦別鉱社宅・厚生施設・関連施設群)
- 上芦別 (明治上芦別鉱遺構)
- 道の駅、北の京芦別 (■星の降る里百年記念館)
- 上芦別～油谷間の鉄道遺構
- 芦別市健民センター (■旧油谷鉱)
- カナディアンワールド公園

- 拠点
- 炭鉱遺産
- 観光対象



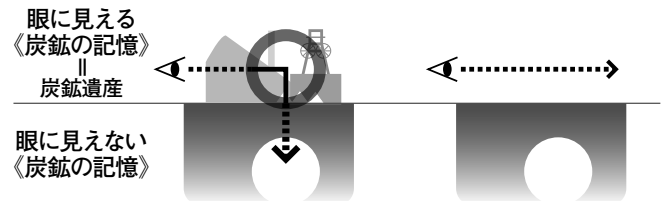
5-4 ネットワーク具体化のため最低限必要な足場

■【拠点】手段として必要な炭鉱遺産への投資

この戦略で目指していることは、空知産炭地域で地域活性化に向けた動きを起こすことです。そのためには、誇り・思い・文化・習慣など、人によって作られてきた歴史の積み重ねである眼に見えない資源を含めた《炭鉱の記憶》を活用することが不可欠です。

しかし、往々にして人は、眼に見えないものを見過ごしがちです。また、眼に見えないものの価値を表現することは、すぐには達成できません。そこで、《炭鉱の記憶》の価値を高め地域活性化に向けて活用するために、物的な炭鉱遺産の力（わかりやすさ＝訴求力）を借りる必要があります。

あくまで、炭鉱遺産を保存することが目的なのではなく、炭鉱遺産が残るのは、地域活性化の活動成果です。地域のイメージを表現し、地域に眠る膨大な蓄積がある眼に見えない《炭鉱の記憶》を活用するために、炭鉱遺産を維持・活用することは、地域活性化に向けた必要な投資であると言えます。



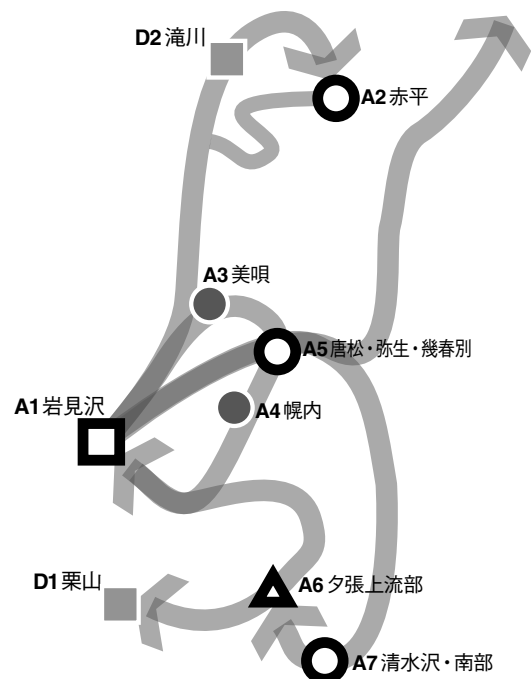
■【拠点】イメージ保持のために必要な拠点

全ての炭鉱遺産を維持・活用することは、現実的には不可能です。そのため、空知が《炭鉱の記憶》をとどめた地域であるということをも地域内外にアピールし、《炭鉱の記憶》の手がかりを得るための足場となる、象徴的拠点を戦略的に配置する必要があります。

すでに、4-2(先導的な拠点の選定)と5-3(拠点のネットワーク)での検討から、幾つかの拠点が選定されています。

この地域を象徴する炭鉱遺産があるA1岩見沢～A7清水沢・南部の7拠点和、地域外との接点となる3拠点（A1岩見沢＝再掲・D1栗山・D2滝川）の合計9拠点は、

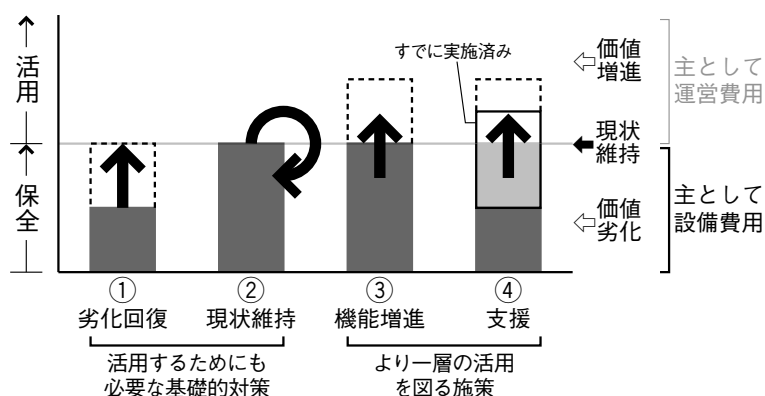
これら拠点が共同して、空知のイメージを確保する役割を先導します。



■【拠点】整備パターン

それぞれの拠点における炭鉱遺産の現状は様々ですが、保全・活用するために必要な投資（主として設備費用＝イニシャルコスト）について、幾つかのパターンが想定されます。

- ① **劣化回復**：活用する以前の水準にあり、現状維持の水準に高めるための投資が必要なもの
- ② **現状維持**：現状維持の水準にあるが、これを安定的に持続するために今の段階で追加投資をすべきもの
- ③ **機能増進**：現状維持の水準は達成されているが、追加投資によって一層の価値増進が期待できるもの
- ④ **支援**：すでに他の事業主体によって保全・活用が実施され、これを支援することで価値増進が期待できるもの



■【拠点】広域的な観点から求められる整備の方向性

各拠点の整備については、各々の炭鉱遺産などの状況に応じて、施設所有者など関係者の理解を得た上で、関係者（市民・行政・学識経験者など）による議論を経て、整備内容や手法を定めて実施されることとなります。

また、各拠点の整備にあたっては、少なからず投資が必要であり、内容や手法によって投資額は大きく変動することから、その財源をどのように確保するかが大きな課題です。

しかし、空知産炭地域の活性化の観点から、炭鉱遺産の価値を顕在化し眼に見えない《炭鉱の記憶》の活用につなげるために、炭鉱遺産などの整備についての議論を避けて通ることはできません。

このため、整備にあたっては様々な課題が存在することを前提に、今後の議論のたたき台として、現段階で想定した整備の方向性は次の通りです。

A1 岩見沢：交通至便の位置に地域内外の接点となる拠点の確保が急がれる

A2 赤平：地域北部のアンカー的な拠点として、炭鉱遺産の保全・活用が強く求められる

A3 美唄・A4 幌内：すでに市や市民の手によって一定の整備が実行されており、当面はこれを支援する

A5 唐松・弥生・幾春別：地域中部にあつて東西方向へ抜ける交通の要衝にあり炭鉱遺産を最もアピールできる位置

にあるが、劣化回復や現状維持が急務となっているため、特に保全が必要である

A6 夕張上流部：全空知で活用できる学術的な機能が集積しているが、現状維持が危うい状況となっていることへの対策が急務であり、これが実現することで機能増進への展望が開かれる

A7 清水沢・南部：地域南部の玄関的な拠点であり、生活の場としての機能の維持により新たな展開の可能性がある

D1 栗山・D2 滝川：地域のサブセンター的な拠点として期待されているが、すでに一定の整備が行われ拠点としての基礎的要件を充足しているため、当面はそれらを支援する

アーカイブス（史料収蔵庫）：《炭鉱の記憶》を活用した取り組み、特に炭鉱遺産を整備する際に、基礎的な史料（図書・図面・写真・映像・音声…）は欠かせないが、散逸・滅失の危機にあることから、まずは史料の探索（サルベージ）と集積、活用されていない公共スペースなどを利用した保全を急ぐ必要がある

想定した各拠点ごとの整備内容
(今後の議論のたたき台として作成)

拠点	対象	整備タイプ				整備内容			費用の目安		
		①	②	③	④	権利調整	保全	活用	小	中	大
A2 赤平	赤平立坑	●		○		■ 建物（民間）	■ 屋根外壁の修繕	■ 公開用施設整備			※
	坑口浴場	●		○		■ 建物（民間）	■ 屋根外壁の修繕	■ 公開用施設整備			※
	資料・機械		●	○		市・民間		■ 移設集約し展示 (整備済み)			※
	赤間鉱ズリ山				○	土地（市・道）					
	立坑～ズリ山間			●		■ 土地（市・民間）		■ 拠点フィールド整備			※
A3 美唄	アルテピアッツァ				○	土地・建物（市）					(整備済み)
	美唄立坑				○	土地（道）					(整備済み)
	三菱美唄鉱遺構		○			(多様)	(随時対応)				※
A4 幌内	幌内変電所				○	■ 建物（民間）					(現況)
	幌内選炭機跡				●	■ 土地（市）			■ 公開用施設追加整備		※
	幌内線跡		●			土地（市）					(現況)
	幌内ズリ山		●			■ 土地（市・民間）					(現況)
	布引立坑		○			土地（道）					(現況)
A5 唐松生 幾春別	幌内立坑	●	●			■ 建物（民間）	■ 基礎鉄構修繕				(見守り保存)
	奔別立坑	●	●			■ 建物（民間）	■ 外構整備				(見守り保存)
	錦立坑	●	●			無主物	■ アプローチ整備				(見守り保存)
	野外博物館				●						■ 要素の複合
	住友炭住		○	○		■ 建物（民間）	■ 劣化補修				■ 一部内部公開
A6 夕張 上流部	石炭博物館		●	○		土地・建物（市）	■ 機器更新・建物補修				■ 展示更新・資料整備
	鹿ノ谷倶楽部		●	●		土地・建物（市）	■ 建物補修				■ 利用機能増進追加
	高松ズリ山			○		土地（市）					■ 公開用施設整備
	鉄道車両・資料		●	●		■ 市・民間、土地（市）	■ 鹿ノ谷駅裏に集約				■ 公開用施設整備
A7 清水沢 南部	北炭電力所		●			■ 建物（市・借主民間）	■ アプローチ整備				(見守り保存)
	清水沢ダム		○			構築物（道）					(現況)
	水面（ダム～南部）			○		河川（国）ダム（道）					(湖上ルート形成)
	清水沢ズリ山			●		土地（市）					■ 公開用施設整備
	改良住宅群		○			土地・建物（市）	(通常補修)				(現況)
	地区センター				○	■ 未定					■ 拠点施設整備
A1岩見沢	圏域センター				●	■ 未定				■ 拠点施設整備	
未定	アーカイブス		●	○		■ 公共施設賃借	■ 史料サルベージ・保管	■ 活用・公開体制			※

○=対応の緊急度が高い施設 ●=第一段階に着手すべき ○=条件が整った段階で着手 ■=権利調整・保全・活用に必要内容

これら拠点における整備を全て実施した場合、相応の投資額が必要となります。その事業費の大半を占めるのは、整備タイプ①劣化回復と②現状維持であり、緊急度が高い状況にあります。空知が《炭鉱の記憶》をとどめた地域としてのイメージを保持するために必要な拠点であることから、今後、様々な課題を克服して可及的速やかに対応する必要があります。

■【拠点⇔拠点】必要な基盤整備

次のような社会資本（道路）の整備によって、戦略的ストーリーの具体化が促進されます。

- 地域全体の回遊構造の強化、ルートV 5 の具体化
国道 452 号不通区間（芦別～美瑛）の早期開通
 - ルートV 2 の具体化
道道 1129 号三笠栗沢線の未整備部分（幌内～美流渡）
道道 135 号美瑛富良野線の不通区間（盤の沢～奥芦別）
 - ルートV 15 の連絡による地域北部の強化
道道 115 号芦別砂川線の未整備部分（西芦別～上砂川）
- また、次のような施策によって、ルートの回遊が一層促進されます。

- 物理的
広域フットパスルート
- 情報的
誘導・案内サインの統一
ガイドシステム（iPod や GPS などの活用）
ルートのテーマ性設定と景観的な設え^{しづら}
- 制度的
公共交通での事業者間の垣根を越えたエリア乗車券

■推進のための事業構造

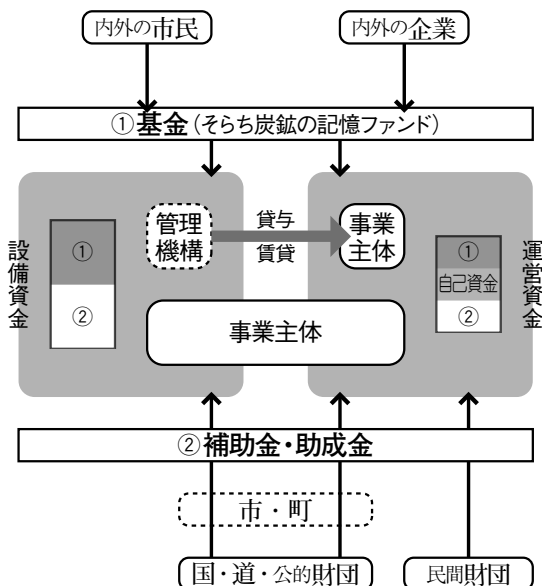
これら整備を推進するための事業内容は、今後、各拠点・施設ごとに、初期投資と運営費用を含め、詳細に検討されることになります。基本的な事業構造は、次のように進めるのが現実的かつ効果的です。

●資金調達

- ファンドの造成…応援団としての市民・企業からの公募型基金
- 公的な補助・助成…産炭地域総合発展基金（新産業創造：新基金）、観光圏整備・雇用対策・地方の元気再生事業（国）、地域政策総合補助金・北海道版観光圏整備（道）など
- 民間の補助・助成

●事業主体

- 産炭自治体の財政的能力の限界から、基本的には民間セクターを想定
- 事業内容によっては、一つの事業主体による資産保有・管理の一体化だけではなく、資産保有と運営管理の法人の分離も考えられる



- これまで、空知産炭地域では教育機関（特に大学・大学院など高等教育機関）の参画が随所で見られているため、「産・官・民」とどまらない「産・官・学・民」という枠組みによる推進体制の構築が考慮されるべき
- 市・町は、経常的な公共事業を展開する際に本戦略の視点を保持し常に参照することや、国・道の補助金・助成金などで市・町を経由する手続きを円滑に媒介することで、本構想の具体化に貢献する

各拠点や基盤整備の取り組みに加えて、空知産炭地域の全域を対象とした「地域マネジメント」の機能が不可欠です。特に、A1 岩見沢に置かれる地域全体のセンター機能拠点では、地域内外を結ぶ重要な役割を果たすだけでなく、各拠点やルート形成について進捗を管理し具体化を促進する役割を担います。

- ① **結節**：地域内外の人や知識を集約し媒介することによって、空知産炭地域のゆるやかな繋がりをつくる。特にこの機能は重要であり、地域内外の動きを知識・情報を付加することによって促進する
- ② **応援**：各地の取り組みにおいて手薄な機能・人員などを支援する
- ③ **先駆**：各地の活動の方向性を示すような実験的・先導的な活動、個々の拠点ではできない基礎的な活動を行う
- ④ **協同**：各地の分散した活動では実現できない連合してあたるべきことの中核として活動する

